
進撃の・・・IS？

普通の魔法使い

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

進撃の・・・IS？

【Nコード】

N5940T

【作者名】

普通の魔法使い

【あらすじ】

転生もの&主人公最強です。まったく文才が無いのでご了承ください・・・。学生ですので定期的に更新できるかどうか・・・。乗りで書いたので、小説といえるか分かりませんがよろしく願います。

序章（前書き）

おかしいところがあるかもしれませんがご了承ください。

序章

・・・今、目の前に変なおっさんがいる・・・。

「変とは何だ。変とは」

・・・なぜか心読まれてる・・・。

「まー何て言っただって俺は神様だからな」

・・・なぜ神様がいる？

「それはお前が死んだからWWW」

あれ？なぜ死んだんだ俺？

確か、本屋で本買ってその後・・・

・・・あれ？覚えてない？

「あつ、それ俺のミスWWW」

ミスってなんだよ。ミスって。

「いやーその事についてだけどさー、お詫びってところでどこか転生させてあげるから」

それはうれしい。色々行ってみたいところがあったからな・・・

「あつ、そうそう。今の所持品の中からでWWW」

いや待て待て。それは無いだろ・・・。

「あるんだぜWWW」

・・・めっちゃ殴りたくなってきた・・・

「やめてくれ。」

・・・まあやめてやるか。

「ありがとうWWW。ところで所持品は？」

・・・進撃の巨人1〜4巻・・・

・・・あれ？これって転生後速攻で死んじゃうパターンじゃね？

「確かにそうだねWWW。じゃあなんか能力付けよっか？」

それはありがたい。まあ初めは身体能力MAXとあとは・・・

そうだ。ISも操れるようにしてもらおう。

「了解。さっそく転生するよ。」

次の瞬間目の前が真っ暗になった・・・

序章（後書き）

感想をお願いします。

目覚め（前書き）

やっと2話目にいきました・・・。

短めです・・・。つくづく自分の文才のなさにあきれています・・・。

目覚め

「うつ・・・」

目が覚めたら周りに巨人に食べられた後の死体があった。

どれも下半身がなかったり、頭の上半分がなかったり・・・。

「おえっ・・・」

物凄くグロテスクだった。

今までゲームの中では散々グロテスクなのはやっていただけ・・・。

あまりにも酷過ぎた。

「何なんだよこれは・・・」

漫画ではわからなかった本物の世界・・・。

ドスン

ドスン

ドスン

気がついたら、15メートルぐらいの巨人が向かってきてた。

「やだ……。まだ死にたくない……。」

（ならば早く力を使え……。）

「でも、どうやって……。」

（強く願えば大丈夫だ……。）

もう目の前に巨人が迫っていた。

「俺に力をくれ……」

そう叫んだとき、全身を光が覆った。

そしてその体には……

目覚め（後書き）

主人公の名前どうしよう・・・。
何か意見があったら教えてください。

そのころ（前書き）

何とかいったかな…？

そのころ

side 訓練兵団34班

どんどん巨人が侵入してきているのが見える。

その中で、巨人が逃げ遅れた民間人を発見したらしく、そこに向かって接近していった。

「誰か逃げ遅れたみたいだ」

トーマスが言うと、

「全員で救出するぞ!!」

とエレン。

『おおおお!!!!』

トーマス・ナック・ミリウス・ミーナ・アルミンらが雄叫びをあげた。

それぞれが立体起動に移り巨人めがけて進んでいく。

「奇行種だ!! 避けろッ!!」

避けた瞬間巨人が壁に衝突した。

「うっ…」

巨人の口にはトーマスが入ってた。

「ト…トーマス!!」

次の瞬間トーマスは巨人に飲み込まれた。

「ま…!! 待ちやがれ!!」

エレンが去っていく巨人を追いかける。

「よせ!! 単騎行動は——エレン!!」

そして

「下にもう1体——」

「うッ!!?」

ブチィ

巨人に足を左足を食べられたエレンがいた。

「そんな…エレンが…」

「やばいぞとまってる場合か!!」

「来るぞ!! かけろッ!!」

ナツク・ミリウス・ミーナが巨人に立ち向かうがみんな一瞬でやら

れてしまった。

アルミンはただただその光景を見ているだけだった……

そのころ（後書き）

終わり方が微妙な気もするけど：
ご意見・ご感想ありましたらどんどん書いてください。

キャラ設定（前書き）

P
V 2, 744アクセス
ユニーク 941人 になっていました。

キャラ設定

まえはら かずき
前原 一輝

15歳(男)

神によって殺されてしまった残念な人。

その代わりに身体能力UPとISに乗れる能力など授かった。

容姿は髪は黒で肩ぐらいまで伸ばしている。

身長は175cm位で標準的な体格。

性格はやるときはやる。

機体説明

GUNDAM

エクシア

GNソード

刀身を折り畳み銃身を展開したライフルモードに変形する。長大な刀身と高い攻撃力を持つ反面、取り回しでは他の武装よりも劣る。

GNロングブレード・GNショートブレード

両腰の武装ラッチに装備される大小2振りの実体剣。手持ち装備であるため、GNソードよりも取り回しに優れている。ラッチに固定された状態で刀身を前方に回転させることも可能で、接近してきた敵への奇襲に用いられる。

GNビームサーベル・GNビームダガー

投擲用に刀身を短くしたビームダガーとしても使用可能。通常は両肩後部に装備された2基をサーベル、腰背部に装備された2基をダガーとして使用する。

GNバルカン

両手首付近に1門ずつを内蔵する。

GNシールド

接近戦用により小型軽量化され、先端部が打突に適した鋭い形状となっている。

デュナメス

GNスナイパーライフル

遠距離狙撃に適した長銃身を持つ専用ビームライフル。銃身下部に姿勢安定用のバイポッドが備えられている。不使用時は肩部アタッチメントに懸架される

GNビームピストル

両ふくらはぎのホルスターに格納される拳銃型ビーム砲。GNスナイパーライフルとは逆に威力と射程距離で劣る分、連射性能と取り回しに優れる。ホルスターは着脱が可能で、任務内容によっては装備されない場合もある

GNビームサーベル

腰背部のGNバーニア側面に計2基を装備する。

GNミサイル

腰部フロントアーマー内に計16基、両膝部に計8基を格納する。

GNシールド

初期は左肩アタッチメントに1枚、GNフルシールド装備時は両肩に計2枚装備される。多方向からの攻撃に対処する。

GNフルシールド

両肩アタッチメントに追加装備される外套状の大型GNシールド。片方のシールドにつき2段階のヒンジを持ち、アタッチメントの可動部を含めて装甲板を3段階に開閉させることができる。

高高度狙撃銃

高高度狙撃用大型ビーム砲。腰のGNバーニアに安定脚代わりのテールユニットを装着し、スコープを頭部ガンカメラに直結。大型GNコンデンサーにGN粒子をチャージし、高濃度圧縮・加速させることで驚異的な射程距離と威力を発揮する。

キュリオス

GNビームサブマシンガン

高い連射性能を持つ2連装ビーム砲。巡航形態では、銃身がマニピュレーターで保持されたグリップ部を残して分離し、右翼部に固定される。

G Nハンドミサイルユニット

オプションとして両腕に装備される大型ミサイルランチャー。片腕ごとに3連装式の発射筒を2基、両腕合わせて12発のミサイルを装填する。G Nミサイルではなく旧来の炸薬式弾頭を使用する。

G Nビームサーベル

腰部後方の装甲裏に2基を格納する。

G Nシールド

高速戦闘に対応した専用シールド。先端部は開閉構造となっており、打突や捕獲用のクローとしても使用される（この形態は「G Nシールド・クローモード」と呼称される）。またクローの間には、隠し武器として伸縮式の短剣「G Nシールドニードル」が内蔵されている。

テールユニット

アブルホールと共通規格の武装コンテナで、巡航形態時に両脚で挟み込むように装着される。

テールブースター 国連軍との最終決戦で投入された新型テールユニット。大型G Nビームキャノン2門と大推力G Nバーニアを備え、巡航形態時の火力と推力を大幅に向上させる。

ヴァーチエ

G Nバズーカ

主武装の大型ビーム砲。両手で構え発射する。胸部のG Nドライヴと直結することで、戦艦をも破壊可能な威力を発揮する。さらにこの状態でG Nバズーカを変形させ、バーストモードに移行することで、より強力な砲撃を行うことが出来る。ただしG Nコンデン

サーに貯蔵されたGN粒子を大量に消費するため、短時間での連射は不可能。

GNキャノン

背部に2基装備された可動式2連装ビーム砲塔。グリップが備えられており、外装排除後のナドレでも手持ち火器として使用可能。GNフィールド発生器と一体化した構造になっている。

GNビームサーベル

ナドレの両膝装甲内に格納されている。その為、外装排除後も使用可能。

特性 変形

第三世代の機体なら4機の中からどれにでも変形できる。

まあ、今回はこんな感じでいいでしょうか？

ちなみにセカンドシフトすれば第4世代の機体も出そうと思います。

キャラ設定（後書き）

うーん…なんか戦闘シーン大変そうだな…
ご意見・感想お待ちしております。

GUNDAM(前書き)

更新遅れてすみませんm
〔 m
受験生なのでこれからも更新遅れるかもしれませんが…

GUNDAM

side 一輝

何だろう…

何だか懐かしい気がする…

——スキンバリアー皮膜装甲展開…完了。

——スラスト推進機正常作動…確認。

——ハイパーセンサー最適化…終了。

——GUNDAMエクシアにて起動…

——GNソード展開完了。

——エクシア起動

次の瞬間一輝に襲いかかろうとしてた巨人が頭から真っ二つになって崩れ落ちた。

そこにはエクシアを装備した一輝の姿があった。

「…やったのか…俺が…!!」

——警告！敵接近中。距離300

その方向を見ると15メートル級の巨人が2体接近していた。

「また来たのか…だが殺^{やっ}してやる!!」

^{イグニッションブースト}
瞬間加速で巨人に接近して首を切り裂いた。

「あっ…うなじ切らないとだめなんだっけ？」

そう言いながら後ろに周りうなじを切り裂いた。

もう一体の巨人にGNソードをライフルモードに切り替え首の部分を打ち抜いた。

全身に巨人の返り血を浴びたエクシアは悪魔のようにも見えた…

GUNDAM（後書き）

キュリオスとヴァーチェ使わない気がしてきた…

壁（前書き）

時間があるのでもう一話行きます
でもかなり短いです

壁

side?

——あの光は何だ…。この世界の奴では無さそうだな…。……えっ？ガンダムだって…。まさか同じ世界から来た奴がいたとはな…。

sideアルミン

——エレンが死んだ…僕の所為だ…。

一輝がエクシアで巨人を狩り出した頃アルミンは同じようなことを考えていた。

目の前でコニーが名前を呼んでいるのにも気づかずただ考えていた…。

side一輝

「最後の一体…！」

GNソードで巨人の首を？き切った。

遠くの方にも何体かいたがほかの奴を探しているようでこっちに興味を示さなかった。

カンカンカンカン…

遠くで鐘が鳴っているのが聞こえた。

「確かこの鐘は引き上げの合図だったよな…？」

一輝は瞬間加速イグニッション・ブーストを使って壁に向かった。

Side 駐屯兵团

「おい、あれは何なんだよ…！！」

「俺に聞くなよ！！」

「また新手の巨人だろ…」

「おい、さすがに洒落にならないぞ…！」

「もう、ウォール・ローゼも終わりだ…」

Side 一輝

「何だか壁のほう騒がしいが…まあいいか」

その時一輝はどんなことが待っているかは知りもしなかった…。

接触（前書き）

駄作ですみません…

接触

side 一輝

壁に向かって移動してたらいきなり攻撃を受けた。

幸いミサイルなどではないので、簡単にかわせたがなぜ打たれたのかが理解出来ずにいた。

「その巨人、大人しく投降しろ！」

その言葉を聞いて一輝は愕然とした。

「ちよっ！…俺のどこが巨人なんだよ！！！」

「お前が纏っているそれは何だ！！それは我等の技術ではない！！
よってお前は人間ではなく、新種の巨人と言う事だ！！！」

「なっ！！…だったらさっき俺が巨人殺したのを見ていただろ！！！」

「だったら向こうを見ろ！！巨人が巨人を殺しているではないか！！」

言われたどうり見てみると、そこにはエレン巨人体が暴れていた。

「でも俺はちゃんとした人間だろ！！！」

「人の皮を被った人間かもしれない」「それはありません」……来たか」
話していた人を遮って話に入ってきたやつを見た。

「なっ！…なんでお前がここにいるんだ…！」

「久しぶり。元気にしてた？一輝」

そこには黒髪の女がいた。

「隊長！ここは危険で「心配は要らないわ」…はい」

「何でお前がこの世界にいるんだ！」

「私も『神』によって呼ばれたのよ」

「じゃあ…お前も死んだってことかよ…！」

「うーん？そうだと思うよ。それより何で『ガンダム』なんかに乗ってる訳？明らかに原作崩壊してるじゃんww」

「一応俺も『神』に呼ばれたからな。オプションで付けてもらった。ってかお前がいる時点で崩壊してるだろ」

「ふーん。相変わらずのオタクぶりだねww。まあ気にしない気にしない」

「オタじゃねーよ！って言うか気にしろよ！」

「ガンダム乗ってどこがオタクじゃないって言い切れるんだよ」

「何か俺の一言シカとされてるよ!？」

「さて、奇行種の方はどうなった？」

「もはや存在まで!？」

「さっき絶命しました。ですが…」

「中から人が出てきたんだね？」

「は、はい。そのとうりです。今こちらに向かっています」

「とりあえず来たら拘束しという」

横で体育座りをしていじけてる一輝をほっというて黒髪の女は言った。

「今隊長と対話していた者は？」

「一輝ならほっというて良いわ。その内復活するでしょ」

「了解しました」

そうして皆一輝の事をほっというて散開した。

接触（後書き）

…乗りでオリキャラ出しちゃった…。
設定は次回書きます…

キャラ設定2

おおもり みき
大森未来

15歳(女)

神によって呼ばれた。

前の世界でも一輝と面識がある。

中学にあがると同時に外国に行ったがそこで事故にあい死亡。

一輝の家の隣だった事もありかなり仲がよい。

一輝のように身体能力UPと能力を授かったが、元の戦闘力が高いため本気を出せばもはや人では勝てなくなる。

そのとき幾ら一輝がISを装備していてもエネルギーを一撃で20分の3も減らせる。

容姿は黒髪で背は一輝と同じぐらい。かなり美人。

ミカサよりも強く歴代でかなりの逸材。

性格はマイペース。

駐屯兵団の隊長でもあるが基本的に部下にすべて任せている。

更に、楽しそうであれば自分の管轄外でもやる。

能力は、治癒、攻撃、防御のどれかを発動させるが代償として体力の殆どを持っていかれる。

しかし、その分効果は絶大で、最大なら治癒は一片に3人蘇らせる事も可能。

キャラ設定2（後書き）

こんなもんでどうでしょう？

感想ですが、作者は精神面がかなり脆いので（ボロボロの紙をも打ち破れないほど）なるべくソフトにしてもらえると嬉しいですよ…

休息

s i d e ミカサ

エレンが生きてた。

その事実には涙が流れ落ちた。

すぐさま立体起動を使ってエレンの元へ急いだ。

s i d e 未来

さっきからずっと凹んでる一輝を見て、

「流石にやりすぎたかな」

と思っていた。

s i d e 一輝

未来に空気扱いされてから30分経過した。

「……はあ」

ため息しか出てこない。

「あゝ。ゲームやりてゝ」

そこに張本人の未来が、

「おいオタ。さっさと動け」

「だから俺はオタじゃない！」

「今の発言は？」

「………スミマセンデシター」

「分かれば良い。ところでまだあの能力使える？」

「ああ。ISの事ね。いつでも大丈夫だが」

「なら、後2時間後ここに集合して」

「穴塞ぐのか？」

「それしか無いじゃん」

「ちょ……！流石にISじゃあの岩は持ち上げられないよ」

「何言ってるの？あんたは、周りの巨人を駆逐すれば良いだけ」

「ああ、そう言う事か」

「じゃあ、そういう事だから準備しておいてね」

「了解した」

そして2時間後…

エレンと合流した一輝がはしゃいだのを未来の鉄拳で鎮められた。
そしてピクシスの演説が始まった…

休息（後書き）

急いで書いたんで後からおかしい所が出てくるかもしれませんがそのところはご了承ください

連載休止のお知らせ

暫く受験のためにP Cは使えなくなり更新することが出来なくなりました。

本当は月一で出してもらおうとしたのですが、父により暫く没収という事になりました。

本当にすみません。

多分、最悪でも3月になれば復活出来るかと思っています。

ちよつとずつ書く形になると思うので早くても3ヵ月後とかになると思います。

また、このようなクオリティーの悪い小説なのに見てくださっている読者の皆様、ありがとうございます。

では、このあたりで…。

また連載が再開したときにお会いできますように…。

共闘（前書き）

…何とかここまで出来ました。

共闘

side 一輝

「注!! もおおおおおく!!」

ピクシスが大声で話し始めた。

「これよりトロスト区奪還作戦について説明する!! この作戦の成
功目標は破壊された穴を――塞ぐ!! ことである!!」

ザワ…

「えっ…!」

「塞ぐって…一体…どうやって?」

「穴を塞ぐ手段じゃがまず彼らから紹介しよう。まずは訓練兵所属
エレン・イエーガーじゃ」

「え!?! エ…エレン!!?!」

「彼是我々が極秘に研究してきた巨人化生体実験の成功者である!
! 彼は巨人の体を精製し意のままに操ることが可能である! 巨人と
化した彼は前門付近にある例の大岩を持ち上げ破壊された扉まで運
び穴を塞ぐ!!」

「そして、もう一人紹介しよう。マエハラ・カズキじゃ。彼は壁の
外から来たものだ。彼は見たことの無い武装をするが、それでエレ

ンの援護をしてもらおう!!」

省略（漫画と同じだから）

「我々はこれより奥の壁で死んではならん!! どうかここで――」

「ここで死んでくれ!!!!」

演説から数十分後：

エレンたちは壁の上を走っていた。

「俺はここで狙撃して巨人を防いでおく。お前は自分のことに集中しろ」

「わかった。もしもの時は…」

「わかってる。さあ、主役はがんばって来い」

「おう!!」

そう言ってエレン達は立体機動で進んでいった。

それを見送ってから一輝は、

「さて、こっちも始めますか。…デュナメス！」

共闘（後書き）

途中で省いたのはめんどくさいからじゃありません
W
W

暴走（前書き）

今回もって言うか毎回なんですけどかなり短めです。

暴走

side エレン

——絶対成功させてやる！

そう思いながらエレンは自分の手を噛んだ。

ドオオオオン

アアアアアアアアアアア

side ミカサ

——人間の比率で考えれば、あの岩を持ち上げられるとは思えないけど……きっとエレンには、私達を導く強い力がある。

「?、エレン？」

次の瞬間……

ドオン!!!!

S i d e 一輝

おいおい、エレンがおかしい事し始めたぞ。

大丈夫か…？

そのときセンサーに反応があった。

——10 m 級が8体接近中

…何か多くないか…？

「まあ良いか。狙い撃つぜ！！」

次の瞬間、ビームが次々と巨人のうなじを貫いていった。

——5 m 級が8体・10 m 級が10体・15 m 級が4体接近中

「おい…流石に原作以上にやばいだろ…」

ふとエレンのほうを見ると、

「！！」

巨人体となったエレンの顔が無くなっていた。

疫病神（前書き）

久しぶりの投稿です
今回はあまり本編と関係ないので飛ばしても問題ないと思います…
多分

疫病神

side 未来

一輝たちが行ってから暫くたった。

作戦どおりに巨人を壁際に集め終えた。

「ピクシス指令、ちよつといいですか」

「どうしたんじゃ？」

「私も一輝のところに行っても良いですか？」

「何故じゃ？」

「だって、その方が面白そうなんですもん」

「ふむ…いいじゃろ。例え駄目と言っても聞かんだろうしな」

「ばれてましたかww」

「行くならさっさと行った方が良いじゃろ」

それを聞くと私は一輝の元に向かった。

side 一輝

何があつたか知らないが、大変な事になつてるのは間違えなかった。
ちよつと様子をm「一輝」…名前を呼ばれた気がするけど気にしないぞ。

…邪魔がh「聞こえてんの？一輝」…気にしたら負けだ。気にs「いい加減にしないと人生を左右する位のチューをs「邪魔な気配が！！」…誰が邪魔だ」

…お前に決まってるだろ！！

「で、何のようだ？」

「楽しそうだから来てみちやった☆」

……もうどうにでもなれ

異変（前書き）

今年最後の更新です。毎回文章が短くてすみません。

異変

sideアルミン

「起きてくれよエレン!?ここにいるんだろう!?エレン!?!」

side一輝

あれから一悶着あったが何とか未来を巨人の元へ向かわせることが出来た。

その際未来から、

「こんな可愛い乙女を巨人のところに出すんだから援護ぐらいしてよね!」

と言いながら行ったが…、

…どうやら俺の援護は無くて済みそうだ。

そんな事より原作より巨人の数が多いような…

ドッ パラパラ ドッ パラパラ

壁の外の方から音がした。

——警告！アンノウン接近中！

しかし、普通に考えたら巨人が壁を登ってくることはまず無い。

まさか、大型巨人か？と思い後ろを見たがやはり何も無かった。

しかし、まだ外から何かを砕く…

…何かを砕く…？

そこで一輝は最悪な事態を想像してしまった。

恐る恐る壁の下を見るとそこには、

口を開けて今にも一輝を食べようとしている女型の巨人だった。

異変（後書き）

原作から離れてしまっ
て来ているが大丈夫かな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5940t/>

進撃の・・・IS？

2011年12月29日18時48分発行